様式第１１【別紙１の１】

①　事業計画策定支援事業実施報告書

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業名 | 事業計画策定支援事業（廃棄高効率熱回収／廃棄物燃料製造/廃棄物バイオガス熱回収事業）  (※選択事業を○で囲む) | | | | | | | | |
| 事業実施者  （組織名） | |  | | | | | | | |
| 事業実施の担当者 | | 事業実施の代表者 | | | | | | | |
| 氏名 | | 事業者名・役職名 | | | 所在地 | | |
|  | |  | | |  | | |
| 電話番号 | | FAX番号 | E-mailアドレス | |
|  | |  |  | |
| 事業実施の担当者（事業の窓口となる方） | | | | | | | |
| 氏名 | | 事業者名・役職名 | | | 備　　考 | | |
|  | |  | | |  | | |
| 電話番号 | | FAX番号 | E-mailアドレス | |
|  | |  |  | |
| 共同事業者  （組織名） | |  | | | | | | | |
| 共同事業の担当者 | | 事業実施の代表者 | | | | | | | |
| 氏名 | 事業者名・役職名 | | | | | 所在地 | |
|  |  | | |  | |  | |
| 電話番号 | FAX番号 | | | E-mailアドレス | |
|  |  | | |  | |
| 事業実施の担当者（事業の窓口となる方） | | | | | | | |
| 氏名 | 事業者名・役職名 | | | | | 備　　考 | |
|  |  | | |  | |  | |
| 電話番号 | FAX番号 | | | E-mailアドレス | |
|  |  | | |  | |
| 総事業費 （千円） | | |  | | | | | | |
| 補助金所要額 （千円） | | |  | | | | | | |
| <実施した事業の内容> | | | | | | | | |
| ○記入上の注意  各欄の項目について検討した結果を、簡潔に分かりやすく記入する。  また、必要に応じて報告書の参照ページを記入する。  ※実施した事業の概要及び結果等を記入する。（公募要領の補助対象事業の要件３）、４）についての検討結果  及び廃棄物受入計画など将来的な安定稼働等についても記入する。） | | | | | | | | |
| <事業性評価> | | | | | | | | |
| ※投資回収年数や光熱水費の削減効果及び事業性の確保（耐用年数の期間）などの評価について記入する。 | | | | | | | | |
| <基本設計調査> | | | | | | | | |
| ※事業終了後に導入する可能性のある設備の基本仕様（物質・処理フロー、エネルギー収支等を含む）及び  事業に必要な事項を記入する。（必要に応じて図面などを添付する。）。 | | | | | | | | |
| <事業工程> | | | | | | | | |
| ※資金調達計画及び事業化までのスケジュールなどについて記入する。 | | | | | | | | |
| <事業の効果・有望性> | | | | | | | | |
| 当該事業の効果・有望性について簡潔に記入する。 | | | | | | | | |
| <事業の安全性> | | | | | | | | |
| 施設の安全性について記入する。 | | | | | | | | |
| <事業による効果> | | | | | | | | |
| ※事業化により見込まれるＣＯ２削減効果を、本事業の実施により策定した事業計画書の内容に沿って記入する。記入に当たっては、以下の各項目に示した説明に従い記入する。    【ＣＯ２の削減効果】  　ＣＯ２削減量（t-CO2/年）  　　　CO2削減効果算出根拠に基づき算出する。  【ＣＯ２削減効果の算定根拠】  （注１）二酸化炭素排出抑制効果の記入に当たっては、以下の点に留意すること。   1. 算定根拠（引用した数字の出展、計算式を含む）を明記すること。 2. 二酸化炭素排出抑制効果については、「地球温暖化対策事業効果算定ガイドブック＜補助事業申請者用＞（平成29年2月環境省地球環境局）」（以下「ガイドブック」という。）において使用するエクセルファイル（「補助事業者向けハード対策事業計算ファイル」）により算定した年間のＣＯ２削減量を記入すること。   ガイドブック等は下記よりダウンロード可能。  http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz\_local.html   1. ガイドブックによるＣＯ２削減量の算定に当たっては、以下に留意すること。   　 ・エクセルファイル（「ハード対策事業計算ファイル」）における「事業による直接導入量」に基づく  ＣＯ２削減量を算定すること（「事業による波及導入量」に基づくＣＯ2削減量の算定は不要。）。  　　　　　・エクセルファイル（「ハード対策事業計算ファイル」）における「エネルギー消費量・供給量の設定」　　　は、具体的なデータを記入することとし、その根拠、引用元を「記入欄」に記入すること。   1. 各エネルギーの排出係数等を確認し、適切な係数を記入すること。 2. 施設の省エネルギー化に資する照明・空調設備を補助対象として計上する場合は、通常の設備に対す   るCO2削減量も算出すること。  【ＣＯ２削減コスト】  ＣＯ２削減コスト（円／t-CO2）  ※CO2削減量１トンを削減するために必要なコスト（円／ｔ-CO2）を算出してください。  （注２）ＣＯ２削減コストは以下の式に基づき算出すること。  CO2削減コスト（円／t-CO2）＝　補助対象経費の総支出予定額（円）／（エネルギー起源二酸化炭素の  排出削減量（t-CO2／年）×当該事業で導入する施設の加重平均耐用年数（年：７年））  （注３）加重平均耐用年数については、「「廃棄物処理施設の財産処分マニュアル」の一部改正について」  （平成20年10月17日付け環廃対発第081017004号、廃棄物対策課長通知）」に準じて、それぞれの設備の見積に基づき算出すること。  【ＣＯ２削減量の把握方法】  ※事業化後のＣＯ２削減量を把握するための方法を記入する。 | | | | | | | | |
| <添付資料> | | | | | | | | |
| ・事業計画書（成果物）  ・交付申請書に添付した書類に変更がある場合、変更後の書類も添付する。 | | | | | | | | |

注１　記入欄が少ない場合は、本様式を引き伸ばして使用する。